「音楽教育実践ジャーナル」vol.15（通巻第 28 号）の原稿募集

2016 年度から「音楽教育実践ジャーナル」は実践の交流誌となりました。
現在取り組まれている実践などについて，特集や自由投稿に原稿をお寄せください。
自由投稿は，テーマにかかわらず多様な投稿をお待ちしています。特集投稿のテーマは下記の二つです。

vol.15（通巻第 28 号）の特集テーマ

特集 1　音楽系の部活動と音楽教育

現在，部活動のあり方が話題となっています。音楽系の部活動といえば，合唱や吹奏楽などがすぐ思い浮かびますが，最近では地域の伝統音楽をはじめ多様な部活動なども注目を集めています。それら音楽系の部活動を，音楽教育の視点でどうとらえていくかという議論は，これまであまり行われてこなかったのではないでしょうか。

顧問の教員や児童・生徒の過重な負担，専門家や地域の指導者との連携，学校や教員と保護者との関係，コンクールや行事への参加，予算や部員の確保，音楽科の授業との関係など，さまざまな角度から議論ができるように思われます。なお，この特集では，教育課程外の学校教育活動としての部活動だけではなく，小学校の特別活動としてのクラブ活動も対象とします。

音楽系の部活動の現状と課題，新しい動き，今後の展望などを，音楽教育という視点から検討し，意見や情報を共有する場にしたいと思います。実践報告をはじめ，ヒントとなるアイディアや事例など原稿をお待ちしています。

特集 2　0.1.2 歳児と音楽教育

これまで小児科学，発達心理学などでは早期乳児期からの母子相互作用に関する研究が多角度からなされており，学際的な研究の中ではコミュニケーションの姿を「音楽性」をキーワードとして分析する研究等も増えてきています。

一方，保育現場では乳幼児の能力についての科学的根拠とは乖離した，極端ともいえる音楽的早期教育が実践されてもいます。こども園化の流れを視野にいれると，音楽教育に関わる者が 0.1.2 歳の音楽教育の在り方の本質を捉え，どのように実践していくかが重要な意味を持ってきています。

そこで今回，幼児・児童期へと繋がる 0.1.2 歳児期の子どもの音楽認知・表出能力等についての先端的研究成果を知ること，併せてそこから導かれる「音楽教育」が果たす役割を考えることを目指した特集を提案しています。

保育・幼児教育の分野に限らず，家庭内の事例等にもスポットをあてた研究をどしどし発信してください。

みなさまからの原稿をお待ちしています。

【投稿時のお願い】

・封筒に「ジャーナル特集投稿」または「ジャーナル自由投稿」と朱書し，下記送付先にご郵送ください。
・【別紙１】投稿申込書，【別紙２】投稿者用チェックリスト各１部（学会ホームページよりダウンロードできます）を同封し，原稿４部をお送りください。
・書式，字数等は学会ホームページの『音楽教育実践ジャーナル』投稿規定および「投稿の手引き」，テンプレートをご参照ください。図表，写真等も挿入スペースを文字数に換算して字数に含めます。
・原稿の到着後，事務局より「受領通知」をお送りします。10 日以上経過して通知がない場合は事務局へご一報ください。
・採否については，編集委員会から 2017 年 5 月末日までに投稿者へ連絡いたします。審議の結果によっては，修正をお願いする場合もあります。

『音楽教育実践ジャーナル』vol.15（通巻第 28 号）への投稿は，自由投稿・特集投稿ともに，
〒184-8799　東京都小金井郵便局私書箱26号　日本音楽教育学会事務局「編集担当」宛
にお送りください。2017 年 2 月 15 日（水）必着です。